

たので正直受賞は嬉しい驚きでした。今後は特に男女ともにみられる腺癌増加の原因について分析疫学による検討も加えてさらに研究をすすめることができたらと考えています。

国際活動③—IARC/韓国国立がんセンター 共催 地域がん登録国際コースに参加して

松尾 恵太郎

愛知県がんセンター研究所 疫学・予防部

昨年8月22-27日の6日間、IARC/韓国国立がんセンター（KNCC）共催で地域がん登録国際コースが、KNCCで開催された。アジア諸国を中心に計14ヶ国から30名弱が受講者した。日本からは、国立がんセンター松田智大、丸亀知美両先生が講師として、山形県立生活習慣病センター柴田亜希子先生ならびに筆者が受講者として参加した。（写真）



コースは、講義形式の部分と小グループによる実習形式に分かれていた。講義は、がん登録総論、ICD-O3、ケースファインディング、登録項目概論、多重がん定義、staging、CanReg4 概説、quality control、罹患報告、個人情報保護・倫理・法的側面等、地域がん登録に必要なトピックが網羅されていた。実習は選択形式で、CanReg 4 の使いかた、情報の抜粋の仕方に関する実習は、松田、丸亀、柴田先生が参加された。小グループによる話し合い形式による実習は有効であったそうである。筆者は、がん登録情報の解析法とその応用に関するグループを選択したが、韓国の講師陣によるデータ解析の実例を伴う部分が参考になった。

コースの途中にアジアにおけるがん登録ネットワークに関するサテライトミーティングが挟まれたが、

温度差はあるものの IARC/IACR 以外にアジアとしてのがん登録のつながりを期待する向きがあるのを感じた。

本年は中国で開催されるので、参加を検討されてはいかがだろうか。

第 17 回地域がん登録全国協議会総会研究会 ならびに実務者研修会を終えて

関根 一郎

長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 原研病理

平成20年9月11日（木）から12日（金）にかけて、長崎大学医学部キャンパス良順会館と記念講堂において、第17回地域がん登録全国協議会総会研究会ならびに実務者研修会を開催致しました。全国から272名にご参加いただき、おかげさまで盛会のうちに無事終了したことをご報告申し上げます。

平成20年は昭和33年に長崎市医師会腫瘍統計事業が開始されてから、ちょうど50周年にあたります。この記念すべき年に総会研究会を開催することができたことは、とても名誉なことでした。放射線影響研究所の陶山疫学部長に副会長をお願いし、私どもの原研病理と放影研、そして、長崎県福祉保健部の面々が力を合わせ、開催にこぎつけた次第です。プログラム作成には国立がんセンターの味木先生にも一役かって頂きました。一昨年の「がん対策基本法」成立を踏まえ、「がん対策基本法施行後の現状と課題」というテーマで、特別講演2題、会長講演、2つのシンポジウムを設定いたしました。前日11日午後のがん登録担当者集会では初の試みとして、実務担当者部会と別に行政担当者部会を設けました。

特別講演は、我が国の地域がん登録の牽引役である国立がんセンター味木和喜子先生に「わが国の地域がん登録の現状と展望について」というタイトルでお話していただきました。さらに、長崎県南保健所の土居浩先生に、「長崎における成人T細胞性白血病とがん登録」というタイトルでご講演いただきました。土居先生は、長年取り組んでこられた長崎県におけるHTLV-1母児感染遮断について紹介されました。

会長講演は、「長崎腫瘍組織登録委員会について-地域がん登録そして原爆研究への利用-」と題し、長崎の組織登録（個人的には病理登録という名称が相応